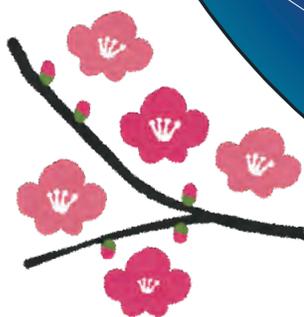
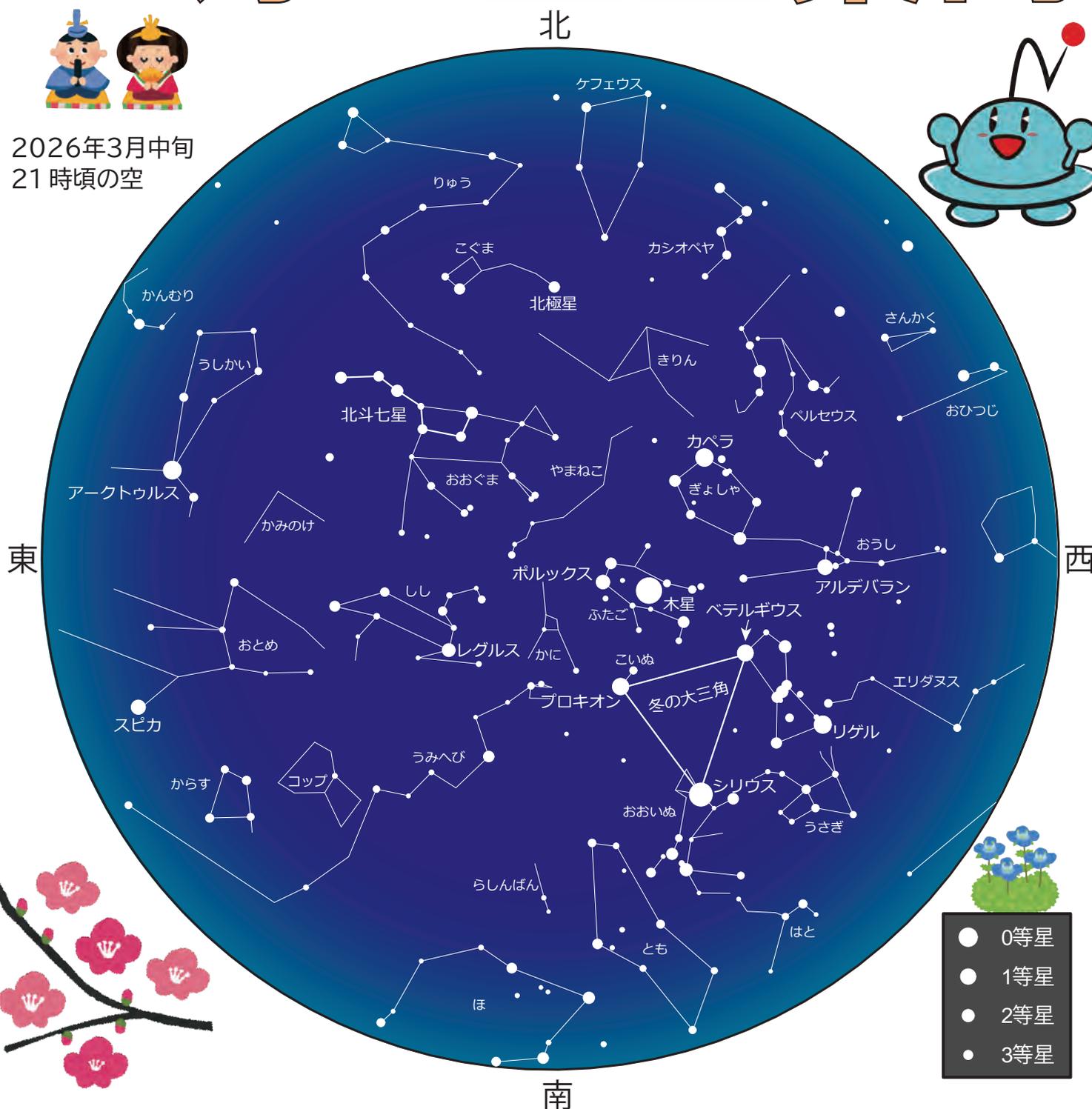


# 3月の星空案内



2026年3月中旬  
21時頃の空



3月の夜空は冬と春の星座が見やすいお得な時期です。日が落ちて見えてくる一番星は木星（約-2.3等）で現在はふたご座に輝いています。木星から少し視線を下げると南の空に輝く一等星はこいぬ座のプロキオン（約0.4等）です。プロキオンから西の方角に目を向けると赤く輝くオリオン座の一等星ベテルギウス（約0.5等）を見つけることができます。ではプロキオンに視線を戻し、そこから南にさらに視線を落とすと、一等星の中で一番明るいシリウス（約-1.4等）を見つけることができます。この3つの一等星をつなげると出来上がるのが冬の大三角です。では今度は木星から東の方角へ視線を向けてみましょう。すると今度は一等星の中で一番暗い春の一等星、しし座のレグルス（約1.4等）を見つけることができます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <https://www.ananscience.jp/science/>

# 3月の月の満ち欠けと惑星について



満月  
3日



下弦  
11日



新月  
19日



上弦  
26日

3月の天体観望会で月が見える日時は？



3/28 (土)・・・全ての回で観察可能

水星：下旬ごろ、明け方東のごく低空で見える。【0.5等】

金星：日没後、西の低い空で観察しやすい（宵の明星）。【-3.9等】

火星：観察は難しい。

木星：宵の口から南の空で見え、深夜遅くに沈む。【約 -2.3等】

土星：観察は難しい。

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ下旬の明るさ）。



昨年9月の皆既月食の様子（場所：阿南市科学センター）

## おすすめの観察対象

### 【3日、夕方から夜にかけて皆既月食を観察しよう！】

今年の大イベントである皆既月食が3月3日に起きます。ひな祭りの日なので覚えやすいですね。前回の皆既月食は約半年前の9月と、それほど期間は空いていませんが、前回は月食の始まりが深夜と大変遅く、観察が難しい時間帯でした。しかし今回は月食の始まりが18時50分と子供も見やすい夕方に始まります（図1）。その後、皆既食が20時過ぎから始まり、食の最大は20時34分になっています。皆既食の間、月は「赤銅色」という赤黒い色に変化します。地球の影に月が隠れてしまうことで皆既月食は起きるわけですが、どうして真っ黒にならないのでしょうか。では図2を見てみましょう。まず大前提として月も地球も太陽の光を反射して輝いています。そして光が当たる

と、その反対側には影ができます。宇宙でも同じことが起き、皆既月食は地球の影に月が収まると、月は太陽の光がさえぎられてしまうので暗くなるといった現象でした。しかし、地球の大気をかすめた太陽光は少し様子が異なります。この太陽光は大気を通過しますが、地球の大気分子とぶつかり、様々な色の光からなる太陽光のうち、青い光が様々な方向へ散らばってしまいます（散乱）。ちなみに昼間の空が青いのもこの散乱によるものです。さて太陽光の青色は大気によって散乱してしまいますが、反対の赤色はこの大気の影響を受けず、光を弱めながらもそのまま空気を通過することができるのです。この時、大気の影響で光の経路が少し曲げられ（屈折）、弱い光が月まで届くため、皆既月食中の月は赤銅色に染まるのです。

科学センターでも当日18時より月食を観察する天体観望会を開催します。興味がある方はぜひホームページ等をぜひご活用ください。

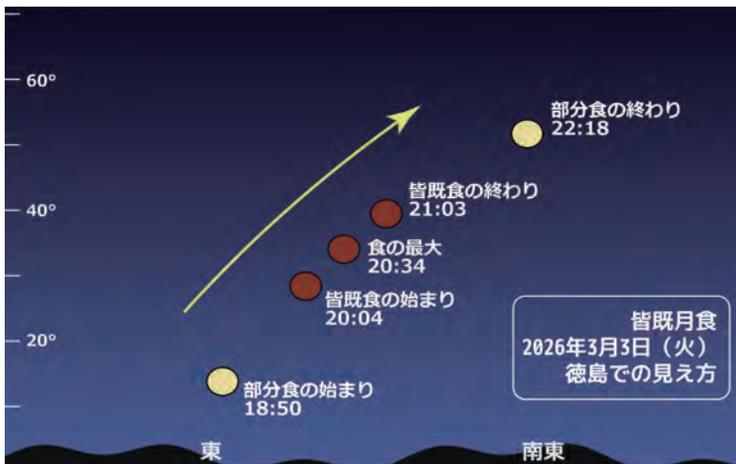


図1 3月3日阿南市から見た皆既月食

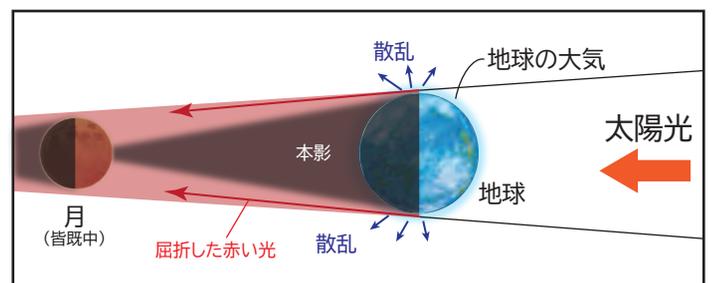


図2 皆既月食と太陽光の関係